

太良町の給与・定員管理等について

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

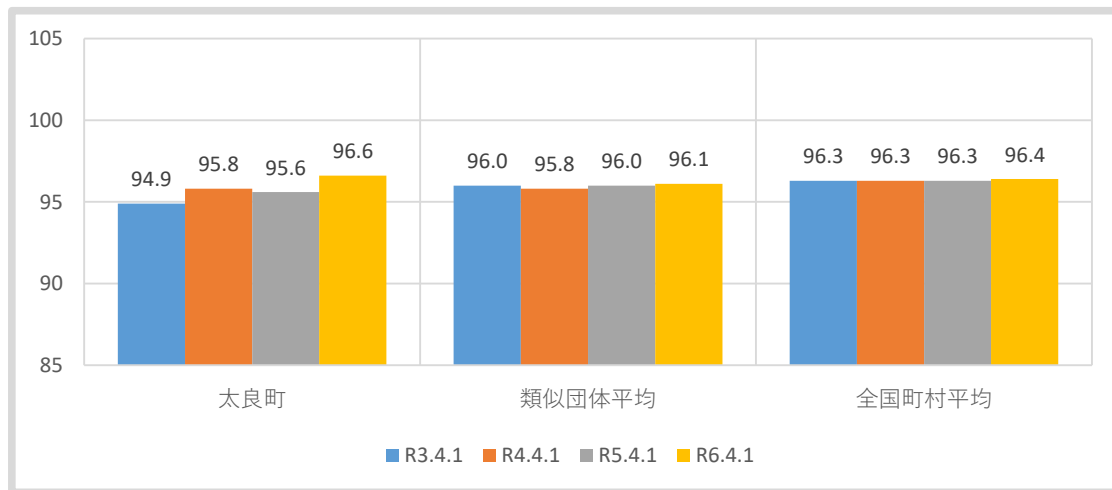
区分	住民基本台帳人口 (6年1月1日)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 4年度の人件費率
	人	千円	千円	千円	%	%
5年度	8,069	7,041,145	157,799	1,046,680	14.9	13.2

(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区分	職員数 A	給与費				(参考) 一人当たり 給与費 B/A	(参考) 類似団体平均 一人当たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
	人	千円	千円	千円	千円	千円	千円
5年度	96	345,933	49,051	136,224	531,208	5,533	5,662

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。
 2 職員数については、令和5年4月1日現在の人数である。また、任期付短時間勤務職員、暫定再任用職員（短時間勤務）、定年前再任用短時間勤務職員及び会計年度任用職員を含まない。
 3 給与費については、任期付短時間勤務職員、暫定再任用職員（短時間勤務）及び定年前再任用短時間勤務職員の給与費が含まれているが、会計年度任用職員の給与費は含まれていない。

(3) ラスパイレス指数の状況



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数（構成）を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表（一）適用職員の俸給月額を100として計算した指数。
 2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。
 3 ラスパイレス指数の算出に当たっては、60歳に達した日後の最初の4月1日以後に支給される給料月額について、本来の給料月額の7割水準に設定される職員を除いている。

※ 令和6年4月1日のラスパイレス指数が、①3年前に比べ1ポイント以上上昇している場合、②3年連続で上昇している場合、③100を超えている場合について、その理由

(4) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】国の給与制度の見直しにおいては、俸給表の水準の平均２％の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

①給料表の見直し

[実施 未実施]

実施内容

(給料表の改定実施時期) 平成２７年４月１日

(内容) 一般行政職の給料表について、佐賀県人事委員会勧告の見直し内容を踏まえ改定。

②地域手当の見直し

地域手当の支給なし

③その他の見直し内容

その他の見直しなし

(5) 特記事項

特になし

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（令和6年4月1日現在）

①一般行政職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
太良町	40.3 歳	298,888 円	338,842 円	321,352 円
佐賀県	42.4 歳	321,156 円	410,148 円	362,958 円
国	42.1 歳	323,823 円	—	405,378 円
類似団体	41.4 歳	303,923 円	349,117 円	332,627 円

②技能労務職

区分	公 務 員					民 間			参考
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国比較ベース)	対応する民間の 類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)	
太良町	57.0 歳	1 人	—	—	—	—	—	—	—
うち運転手	57.0 歳	1 人	—	—	—	乗用自動車運転 手（タクシー運 転者を除く）	60.9 歳	192,600 円	—
佐賀県	56.5 歳	43 人	316,781 円	339,501 円	324,177 円	—	—	—	—
国	51.2 歳	1,829 人	288,144 円	—	330,533 円	—	—	—	—
類似団体	52.4 歳	3 人	282,019 円	308,976 円	296,521 円	—	—	—	—

※技能労務職については、職員数が少ないため記載していません。

区分	参 考		
	年収ベース（試算値）の比較		
	公務員（C）	民間（D）	C/D
太良町	—	—	—
うち運転手	—	—	—

※民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用している（令和3年～5年の3ヵ年平均）。

※技能労務職の職種と民間の職種等の比較にあたり、年齢、業務内容、雇用形態等の点において完全に一致しているものではない。

※年収ベースの「公務員(C)」及び「民間(D)」のデータは、それぞれへ近給与月額を12倍したものに、公務員において前年度に支給された期末・勤勉手当、民間においては前年に支給された年間賞与の額を加えた試算値である。

- (注) 1 「平均給料月額」とは、令和6年4月1日現在における職種ごとの職員の基本給の平均である。
 2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。
 また、「平均給与月額（国比較ベース）」は、比較のため、国家公務員と同じベース（＝時間外勤務手当を除いたもの）で算出している。

(2) 職員の初任給の状況（令和6年4月1日現在）

区分		太良町	佐賀県	国
一般行政職	大 学 卒	187,800 円	196,900 円	196,200 円
	高 校 卒	166,700 円	166,700 円	166,600 円
技能労務職	高 校 卒	164,000 円	164,000 円	—

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況（令和6年4月1日現在）

区分		経験年数10年	経験年数20年	経験年数25年	経験年数30年
一般行政職	大 学 卒	255,400 円	334,400 円	369,800 円	380,800 円
	高 校 卒	該当者なし	310,000 円	341,800 円	371,500 円
技能労務職	高 校 卒	—	—	—	—

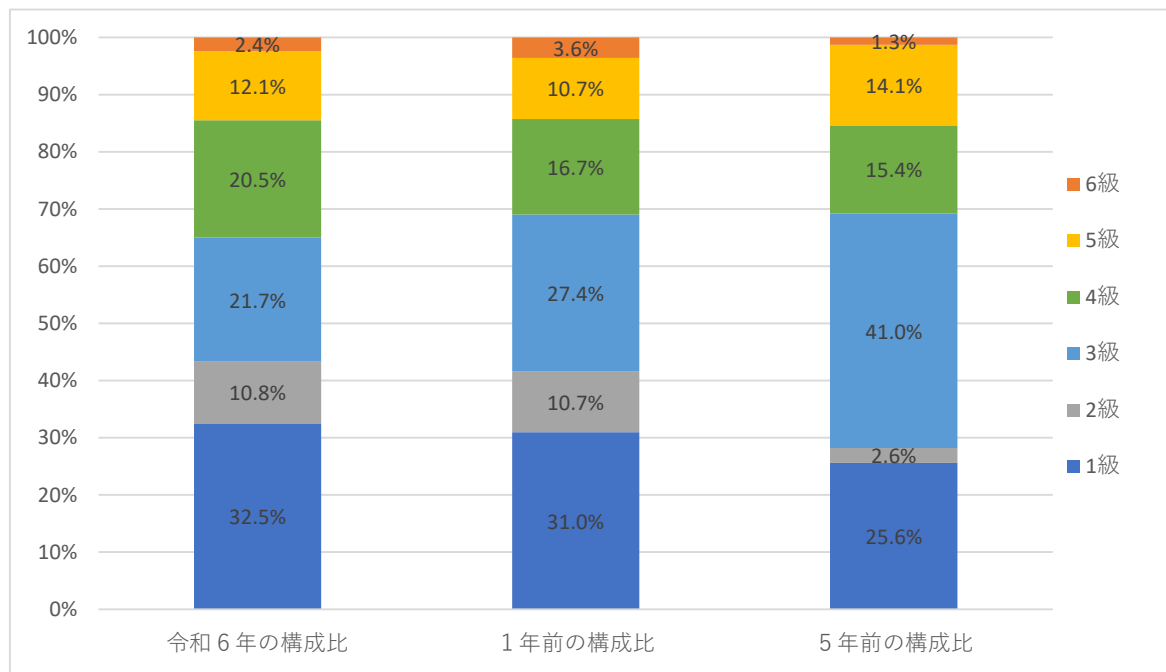
※技能労務職については、職員数が少ないため記載していません。

3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数及び給料表の状況（令和6年4月1日現在）

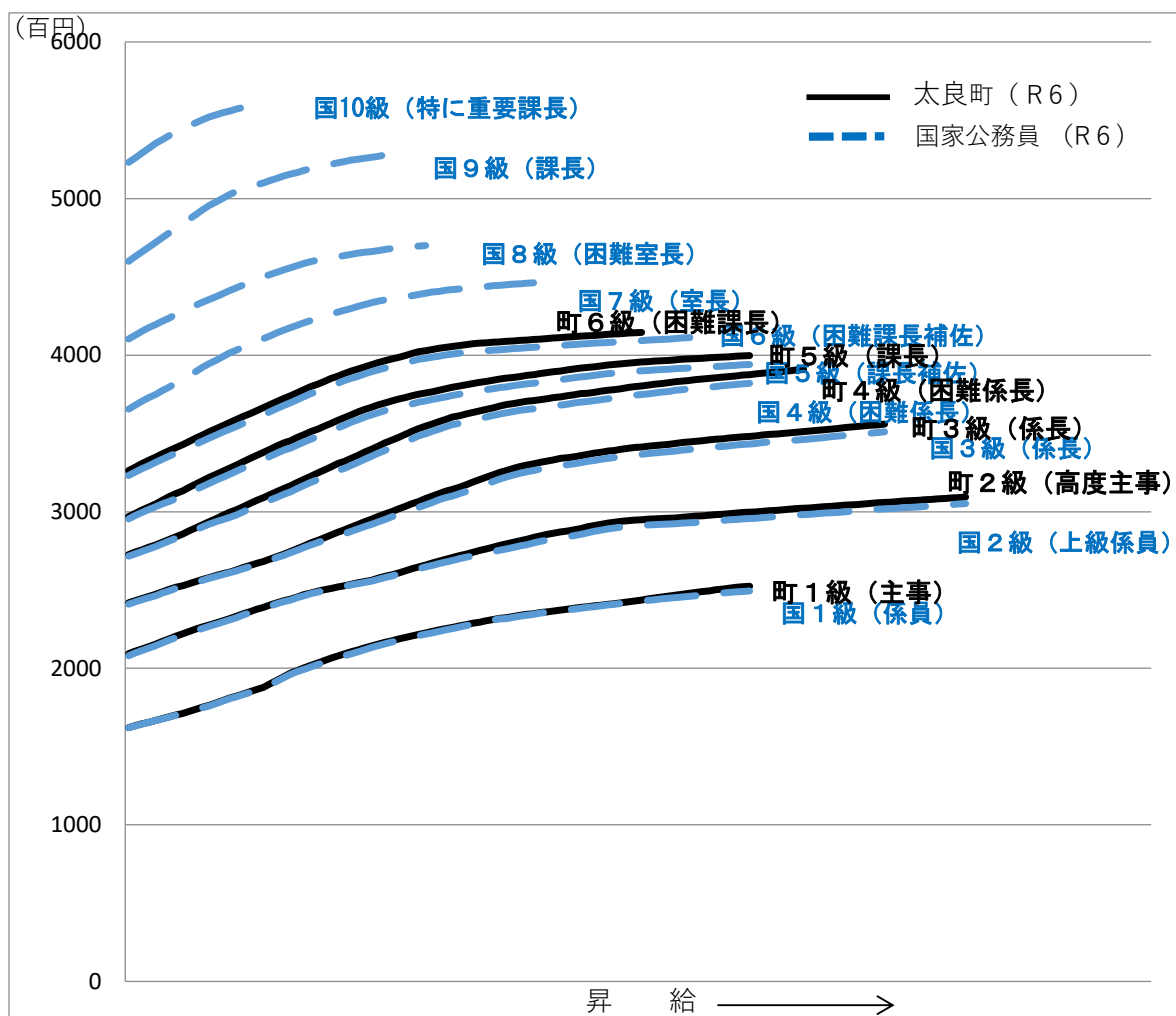
区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1号給の給料月額	最高号給の給料月額
6級	困難な業務を所掌する課長の職務	2人	2.4%	326,300円	414,500円
5級	課長の職務、参事の職務	10人	12%	296,900円	399,700円
4級	困難な業務を分掌する係長、困難な業務を処理する主査の職務	17人	20.5%	272,600円	390,800円
3級	係長、主査の職務	18人	21.7%	241,800円	356,000円
2級	高度の知識又は経験を必要とする業務を行う主事の職務	9人	10.8%	209,300円	309,400円
1級	定型的な業務を行う主事の職務	27人	32.5%	162,100円	252,400円

- (注) 1 太良町の給与条例に基づく給料表の旧区分による職員数である。
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



- (注) 1 平成18年に8級制から6級制に変更している。（旧給料表の1級及び2級並びに4級及び5級をそれぞれ統合）

(2) 国との給料表カーブ比較表（行政職（一））（令和6年4月1日現在）



(3) 昇給への人事評価の活用状況

令和6年度中における運用	管理職員		一般職員	
イ. 人事評価を活用している	○		○	
活用している昇給区分	昇給可能な区分	昇給実績がある区分	昇給可能な区分	昇給実績がある区分
上位、標準、下位の区分	○		○	
上位、標準の区分				
標準、下位の区分				
標準の区分のみ（一律）		○		○
ロ. 人事評価を活用していない				
活用予定時期				

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

太 良 町	佐 賀 県	国
1人当たり平均支給額（5年度） 1,470 千円	1人当たり平均支給額（5年度） 1,643 千円	—
（5年度支給割合） 期末手当 勤勉手当 2.45 月分 2.05 月分 (1.375) 月分 (0.975) 月分	（5年度支給割合） 期末手当 勤勉手当 2.45 月分 2.05 月分 (1.375) 月分 (0.975) 月分	（5年度支給割合） 期末手当 勤勉手当 2.45 月分 2.05 月分 (1.375) 月分 (0.975) 月分
（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による 加算措置 ・役職加算 5～15%	（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による 加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10～20%	（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による 加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10～25%

（注）（ ）内は、暫定再任用職員に係る支給割合である。

○ 勤勉手当への人事評価の活用状況（一般行政職）

令和6年度中における運用	管理職員		一般職員	
イ. 人事評価を活用している	○		○	
活用している成績率	支給可能な 成績率	支給実績が ある成績率	支給可能な 成績率	支給実績が ある成績率
上位、標準、下位の成績率	○		○	
上位、標準の成績率		○		○
標準、下位の成績率				
標準の成績率のみ（一律）				
ロ. 人事評価を活用していない				
活用予定時期				

(2) 退職手当（令和6年4月1日現在）

太良町			国		
（支給率）	自己都合	応募認定・定年	（支給率）	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分	勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分
勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分	勤続25年	28.0395 月分	33.27075 月分
勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分	勤続35年	39.7575 月分	47.709 月分
最高限度	47.709 月分	47.709 月分	最高限度	47.709 月分	47.709 月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置（2～20%） （退職時特別昇給 無）			定年前早期退職特例措置（2～45%）		
1人当たり 平均支給額 — 千円 1,152 千円					

（注）1 退職手当の1人当たり平均支給額は、令和4年度に退職した職員に支給された平均額である。

2 「応募認定・定年」のうち「定年」には、定年退職及び定年引上げ前の定年年齢に達した日以後その者の非違によることなく退職した場合を含む。

(3)地域手当（令和6年4月1日現在）

支給なし

(4)特殊勤務手当（令和6年4月1日現在）

支給なし

(5)時間外勤務手当

支給実績（5年度決算）	18,950 千円
職員1人当たり平均支給年額（5年度決算）	231 千円
支給実績（4年度決算）	20,012 千円
職員1人当たり平均支給年額（4年度決算）	392 千円

（注）職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（○年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含む。

(6)その他の手当（令和6年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績（5年度決算）	支給職員1人当たり平均支給年額（6年度決算）
扶養手当	配偶者 6,500円 扶養親族1人につき 子 10,000円 父母等 6,500円 ※16歳から22歳までの子 1人につき 5,000円加算	同	—	15,114 千円	274,800 円
住居手当	借家・借間 支給限度額27,000円	異	支給限度額	4,122 千円	274,800 円
通勤手当	交通機関利用者（電車・バス等） 55,000円まで全額支給 交通用具利用者（自動車等） 2,000円～31,600円 ※片道2km未満は対象外	同	—	3,758 千円	69,600 円
管理職手当	総務課長 50,000円 総務課長以外の課長 46,300円	同	—	7,269 千円	59,200 円
宿日直手当	1回 4,400円	同	—	—	—
管理職 特別勤務手当	1回 6,000円又は9,000円	同	—	—	—

5 特別職の報酬等の状況（令和6年4月1日現在）

区分		給料月額等	
給料	町長	714,000 円	(参考) 類似団体における最高／最低額
	副町長	596,000 円	843,000 円／355,000 円 700,000 円／434,200 円
報酬	議長	311,000 円	337,000 円／230,000 円
	副議長	258,000 円	280,000 円／182,000 円
	議員	243,000 円	250,000 円／165,000 円
期末手当	町長	(5 年度支給割合)	
	副町長	3.40 月分	
	議長	(5 年度支給割合)	
	副議長 議員	3.40 月分	
退職手当		(算定方式)	(1 期の手当額) (支給時期)
	町長	給料月額×在職年数×500/100	14,280,000 円 任期毎に支給
	副町長	給料月額×在職年数×294/100	7,008,960 円 任期毎に支給
	備考		

- (注) 1 給料及び報酬の()内は、減額措置を行う前の金額である。
2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年＝48月)務めた場合における退職手当の見込額である。

(1)部門別職員数の状況と主な増減理由

区分 部門			職員数		対前年 増減数	主な増減理由
			令和5年	令和6年		
普通会計部門	一般行政部門	議 会	2	2	0	退職不補充 地域包括支援センター業務の拡充に伴う増員 土地改良事業対応職員の増員
		総 務	27	26	▲ 1	
		税 務	6	6	0	
		民 生	11	13	2	
		衛 生	11	11	0	
		労 働	0	0	0	
		農林水産	13	14	1	
普通会計部門	一般行政部門	商 工	5	5	0	土地改良事業対応職員の増員
		土 木	7	7	0	
普通会計部門	一般行政部門	計	82	84	2	＜参考＞ 人口1万人当たり職員数 104.10 人 （類似団体の人口1万人当たり職員数 143.07 人）
		教育部門	14	15	1	国スポ業務対応に伴う増員
		小 計	96	99	3	＜参考＞ 人口1万人当たり職員数 122.69 人 （類似団体の人口1万人当たり職員数 170.68 人）
公営企業等	会計部門	病 院	84	82	▲ 2	退職不補充
		水 道	5	5	0	
		下 水 道	1	1	0	
		そ の 他	5	5	0	
		小 計	95	93	▲ 2	
合 計			191 [222]	192 [222]	1 [0]	＜参考＞ 人口1万人当たり職員数 237.95 人

(2)年齢別職員構成の状況（令和6年4月1日現在）



(3) 職員数の推移

(単位：人・%)

年度 部門別	H 3 1 年	R 2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	過去 5 年間の 増減数 (率)
一般行政	76	79	80	81	82	84	8 (10.5%)
教育	10	11	12	13	14	15	5 (50.0%)
普通会計 計	86	90	92	94	96	99	13 (15.1%)
公営企業等会計 計	80	88	93	94	95	93	13 (16.3%)
総合計	166	178	185	188	191	192	26 (15.7%)

(注) 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数。